

6月14日

親子のあそび場を提供 出張あそびの会を開催

みんな仲良く



町健康こども課子育て支援センター「ひなたぼっこ」と地域おこし協力隊の生永隊員が6月14日、泉ふれあいセンターで出張あそびの会を開催しました。車がないので遠くまで遊びに行けない。歩いて行けるあそび場が欲しい。などの声から昨年10月に始まり、今回で6回目となりました。年齢の近い親子の出会いや繋がりをつくることも目的のひとつで、この日は9組の親子が参加。こどもたちは手づくりおもちゃを笑顔で楽しんでいました。

カメラスケッチ
広報マンが
行く!!
このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにかけつけます。お気軽にご連絡ください。
まちづくり政策課政策調整係 ☎482-2913 (調整室)

6月17日～7月31日

素敵な作品の数々 弟子屈郵便局で同時開催

美しい写真の数々



弟子屈郵便局(藤原将男局長)では、6月17日～7月5日、石橋和美さんの「木工作品展」と7月1日～31日、「村上まさる・浦田マルニー二人展～美しい弟子屈～」が開催されました。

木工作品を制作した石橋さんは、庭にあったオンコの枝や河川などにある流木を利用した作品をたくさん展示されていました。

写真展を行った村上さんと浦田さんは、弟子屈フォトコンテストで受賞するなどさまざまなコンテストで入選されている写真家の方々です。今回は町内の素敵な風景写真を展示していました。

学芸員講座の様子



参加者が集まりました。

今回で3回目の講座は「阿寒摩周国立公園から見る弟子屈の歴史」と題し、国立公園指定の歴史やなぜ阿寒、弟子屈が国立公園に指定されたのかなどをわかりやすく解説。参加した皆さんは真剣に耳を傾けていました。

6月17日

阿寒摩周国立公園について学ぶ 学芸員講座を開催

町ふるさと歴史館の学芸員である津久井薫さんが6月19日、学芸員講座を町公民館で開催し、58人もの

6月22日

花にあふれた環境づくり 花いっぱいフラワーロード事業を実施

きれいに植栽



花いっぱいフラワーロード事業は町の景観向上を目的に商工会青年部・女性部が中心となり、2005年から行われている事業で今回16団体、約50人が約2800株のマリーゴールドなどを植栽し、道路脇が色とりどりの花であふれる景観になりました。

花の苗植える様子



を育むことを目的に行われ、贈呈式では、同委員会から花の苗50株が贈呈されました。その後、5年生と町人権擁護委員の方々でプランターに苗を植えました。

町人権擁護委員の目下部さんは「花を大切に育て、命の大切さを学んでほしい」と話していました。

6月19日

思いやりの心を養う 人権の花運動を実施

釧路人権擁護委員会主催の人権の花運動が6月19日、弟子屈小学校(渥美清孝校長)で行われました。

この運動は、花を育て思いやりの心を

誇れるまちを目指して

てしかがえこまち推進協議会総会を開催



徳永会長による挨拶



各部会からの活動報告

てしかがえこまち推進協議会(徳永哲雄会長)の総会が、6月12日、町役場で開催されました。同協議会は、「誰もが自慢し誰もが誇れるまち」をテーマに、町民の皆さんが主体となり、各部会においてさまざまな活動を行っています。
総会には徳永会長をはじめ、会員や関係者ら約30人が参加し、各専門部会からは、今後実施していきたい取り組みなどを協議したほか、昨年度の活動報告や収支決算、新年度予算案などが承認されました。
開会の挨拶の中で徳永会長は、「これから中心市街地や川湯温泉の再整備などで、町全体が大きく変わっていく。今の時代に合った、より良い団体、活動を目指し、これからも、皆さんと協力してさまざまな取組みを実施していきたい」と挨拶しました。

町の話



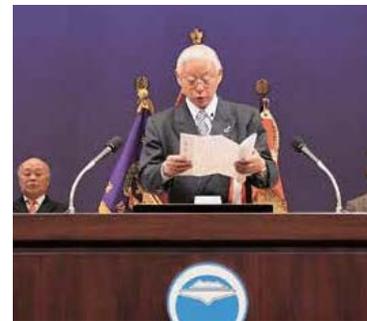
CloseUp Topics

先人への感謝と 未来に向けて

町消防創設100周年記念式典を開催



感謝状の贈呈



徳永組合長による式辞

町消防創設100周年記念式典が6月22日、摩周観光文化センターで行われました。
同消防は、1924年5月に公設弟子屈消防組として腕用ポンプ1台と消防手30人で発足し、1932年には川湯消防組が設置されました。2021年には、弟子屈と川湯の両消防団が統合し、町消防団に生まれ変わりました。現在は、弟子屈町、標茶町、鶴居村で構成する釧路北部消防事務組合(徳永哲雄組合長)が、釧路北部地区の消防活動を担っています。
式には、徳永組合長をはじめ関係者約180人が出席。式の中で徳永組合長は「町民や観光客を守るため迅速な対応ができる強靱な消防体制の構築が必要。釧路管内の各市町村との連携を密にしていきたい」と式辞を述べました。その後、これまでの100年のあゆみをスライドで紹介するほか、数々の功績をたたえ、27個人6団体に感謝状が贈呈されました。
町消防団藤田茂団長は「皆さんのご理解とご協力があったの100周年。関係者の皆さまにはこれからもご指導などをお願いしたい」と謝辞を述べました。

7月4日

災害時に備えて 災害支援機材の贈呈式を開催



今回寄贈されたガス赤外線ストーブ

(一社)北海道LPGガス協会釧路支部弟子屈分会(青木浩二会長)は7月4日、災害支援機材としてガス赤外線ストーブ2台、専用ガスコード2本を町に贈呈しました。

これは、平成22年11月に締結した「災害等の発生時における災害対策協議会の応急・復旧活動の支援に関する協定」によるもので、これまでも災害支援機材の寄贈を行ってきました。

青木会長は「災害時にぜひ使ってほしい。」と話していました。

一生懸命火おこし



北海道LPGガス協会釧路支部(平山晴章支部長)の皆さんが7月4日、弟子屈小学校(渥美清孝校長)5年生にファイヤー学習を行いました。人間と火との関わりなど理解を深めてもらおうと毎年実施しているもので、同支部弟子屈分会の青木浩二会長など9人が来校し、LPGガスについて説明しました。その後の火おこし体験にも児童は真剣に取り組んでいました。

7月4日

火について学ぶ ファイヤー学習を実施

北海道LPG

協会釧路支部(平山晴章支部長)の皆さんが7月4日、弟子屈小学校(渥美清孝校長)5年生に

ファイヤー学習を行いました。人間と火との関わりなど理解を深めてもらおうと毎年実施しているもので、同支部弟子屈分会の青木浩二会長など9人が来校し、LPGガスについて説明しました。その後の火おこし体験にも児童は真剣に取り組んでいました。

7月9日

100年後の環境保全を こども園の園児がヤマベの稚魚を放流



放流をする園児たち

釧路・リバー・プロジェクト・21の会(川村利明会長)によるヤマベの稚魚の放流が7月9日、釧路川ふれあい広場で行われました。

同事業は、平成21年から魚類資源の回復のために行われており、釧路開発建設部釧路河川事務所(西藤浩二所長)や町、こども園まじゅう(鈴木幸榮園長)の園児25人の手により釧路川に放流されました。

川村会長は、「近年、ヤマベの数は顕著に減少している。どこの場所でも釣りができるように100年後の環境を守りたい。」と話していました。

一生懸命玉入れをする園児



たちと一緒に七夕まつりを行いました。

先生方から七夕の由来を聞いたあと、園児全員で「たなばたさま」を歌い、クラスごとに彦星と織姫が描かれたかごに玉入れを行いました。元気で大きな声で歌ったり、一生懸命玉入れをする園児を見ることができました。

7月5日

願いが叶いますように 七夕まつりを実施

認定こども園まじゅう(鈴木幸榮園長)は7月5日、子育て支援センター「ひなたぼっこ」のこども

たちと一緒に七夕まつりを行いました。

先生方から七夕の由来を聞いたあと、園児全員で「たなばたさま」を歌い、クラスごとに彦星と織姫が描かれたかごに玉入れを行いました。元気で大きな声で歌ったり、一生懸命玉入れをする園児を見ることができました。

7月12日、22日

人権について考える 人権教室を開催



人権について学ぶ児童

釧路人権擁護委員会主催の人権教室が7月12日川湯小学校(山舘孝志校長)、同22日弟子屈小学校(渥美清孝校長)で開催されました。

講師は町人権擁護委員の金井典子さん、芳藤啓順さんが務めました。児童は、それぞれの個性やいじめなど身近な人権問題をテーマにしたDVDを視聴したり、グループワークなどを通して人権への理解を深めました。

今回受賞した平田さん



町選挙管理委員会の平田くに子さんが5月16日、室蘭市で行われた北海道市町村選挙管理委員会連合会(白井暢明会長)定期総会にて北海道市町村選挙管理委員会連合会表彰を受賞しました。平田さんは、町選挙管理委員会委員として4年、委員長職務代理者として令和2年から現在まで務め、長年にわたり、適正な選挙の管理執行と公正な選挙啓発に寄与した功績が認められ、今回の表彰となりました。7月19日には、町公民館を訪れ、伝達式が行われました。

7月19日

長年にわたり選挙管理委員会委員として貢献 北海道市町村選挙管理委員会連合会表彰を受賞

町選挙管理委員会の平田くに子さんが5月16日、室蘭市で行われた北海道市町村選挙管理委員会連合会(白井暢明会長)定期総会にて北海道市町村選挙管理委員会連合会表彰を受賞しました。

平田さんは、町選挙管理委員会委員として4年、委員長職務代理者として令和2年から現在まで務め、長年にわたり、適正な選挙の管理執行と公正な選挙啓発に寄与した功績が認められ、今回の表彰となりました。7月19日には、町公民館を訪れ、伝達式が行われました。

6月25日

援農への思いをつなぐ 援農の碑記念式を開催



感謝の気持ちを含めて

太平洋戦争中の1925年(昭和20年)、北海道援農勤労報国隊として本町に派遣された岩手県久慈農林学校(現・久慈東高校)の生徒をたたえる援農の碑記念式が6月25日、摩周観光文化センター敷地内の同碑前で行われました。

同碑は、生徒たちの功勞を忘れず感謝していこうと1989年6月25日に建立しました。式典は、関係者で組織する「6・25会」が中心となって毎年行っています。先人たちが愛した「北上夜曲」に思いを込めて、参加者の斉唱が響きました。今年は町内の関係者15人が出席し、生徒たちの功勞や苦勞に思いをはせました。

6月27日

自身のあり方や生き方を振り返る ロコ・ソラーレ鈴木夕湖選手が講演会を実施



講演を行った鈴木夕湖選手

弟子屈高校(高野龍彦校長)は6月27日、生徒に自身のあり方や生き方を振り返り探究力を高めてもらうことなどを目的に、ロコ・ソラーレの鈴木夕湖選手を特別講師として招き、講演会を実施しました。

鈴木選手は、旧常呂町出身で北京五輪で銀メダルを獲得するなど活躍しており、チームが大切にしていることとして、「コミュニケーション」と「失敗を失敗にしない」の二つをあげました。話しやすい雰囲気づくりや試合に負けた後、「あの負けがあつてよかった」といえるように反省を生かして強くなりたいと話し、生徒たちは世界の大舞台で活躍する選手の話に耳を傾けていました。

このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにかけつけます。お気軽にご連絡ください。

482-2-2918 (課直連)

※ごまごまの政策課政策調整係

6月26日

自閉スペクトラム症への理解 自閉スペクトラム症連続講座を開催



講座の様子

発達つこまの会(鈴木茜会長)は、6月26日、「自閉スペクトラム症の子どもとのコミュニケーション」と題した講座を町社会老人福祉センターで行いました。本講座は、自閉スペクトラム症を持つ子どもへの理解や支援の方法を学ぶことを目的に開催されたもので、今回2回目の講座となり約30人が参加しました。講師はNPO法人ふわり統括施設長高野幸子さんで自発的に感情を伝えたいと良いことがあったと小さい頃から経験させることが大切だと話していました。次回は、8月7日(休)開催とのことでした。

6月30日

町をきれいに クリーン作戦を実施



参加した郵便局の皆さん

弟子屈町内郵便局(弟子屈・美留和・屈斜路)でクリーン作戦として6月30日、弟子屈市街地から美留和に続く町道沿いのゴミ拾いを行いました。

この取り組みは、地域貢献と6月の環境月間に合わせて毎年行っているもので、各局の社員14人が参加しました。約2kmの距離を火ばさみなど使用し、空き缶やペットボトルなどを拾い集めました。

参加した社員は「去年よりゴミがとでも少なかった。観光客にきれいな町であることをPRできたらいい。」と話していました。

6月28日

川湯を知ろう 川湯保育園で歩き遠足を実施



硫黄山で記念撮影

川湯保育園(番場新一郎園長)は6月28日、歩き遠足を実施しました。

0~2歳児は、旧園舎の園庭に行き、

林で自然探索を行い、3~5歳児は、川湯の街を知るために大鵬相撲記念館を見学し、硫黄山まで歩きました。

天候にも恵まれ、汗をたくさんかいた園児たちは、美味しいお弁当を食べ笑顔がたくさん見られました。